

<ul style="list-style-type: none"> • 弱アルカリ性合成洗剤 • 中性洗剤 <p>3 水、熱、日光に対する繊維の性質について調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 水、熱、日光に対する性質も繊維により特徴があることを表などにより分かれせ、繊維製品の取扱い絵表示との関係に気づかせる。
---	---

エ 検証授業〔3〕第3期

(ア) 題材 布地や汚れに応じたせんたくのしかた

(イ) 本時のねらい

- 上着の汚れや布地に応じた合理的な洗い方がることがわかる。
- 清潔な衣服を身につけるため、すすんでせんたくをしようとする意欲をもつ。

(ウ) 指導過程

□ は仮説との関連

段階	学 習 活 動 ・ 内 容	時間 (分)	指導上の留意点 評価 ()
↑ 問題をとらえる ↓ 見通しをたてる ↓ 実証する ↓ 身につける	1 白く洗いあがっている給食用白衣と黒ずんでいる給食用白衣を見比べて課題を設定する。 ◦ 白く洗いあげるためにはどんなことに気をつけて洗えばよいか。	5	◦ ポリエステル65%、綿35%の混紡製品の給食用白衣で白いものと黒ずんでいるものを提示し、白く洗いあげるための条件があることに気づかせる。 ◦ 洗剤の量、洗い方、ほし方については十分気をつけて洗ってあることを知らせ布地に原因があるのではないかと予想し、布地に意識をむけさせる。 (布地の種類に原因があることに気づいたか)
	2 白く洗いあげるためにはどんなことに気をつけなければならないかを考える。	5	◦ グループ実験とする
	3 どうしてそうなったのか実験をして確かめる ◦ 0.05%濃度の洗剤溶液 (標準使用量の $\frac{1}{2}$) 100ml中すすを耳かき1~2杯程度入れよくかきまぜる。 ◦ 布を入れて2分後と5分後にとり出す ◦ 汚れのつき具合を調べる。	20	◦ 布は、綿、ポリエステル、綿とポリエステル混紡の三種類について実験する。 ◦ 再汚染のようすがよくわかるようにするため洗剤液の中に油を1~2滴入れるとよい。 (布地の再汚染の原因がわかったか) ◦ 布地の変化をカードに書きまとめる。
	4 実験結果から再汚染を防ぐ洗い方についてまとめる。 ◦ 洗剤液の中では短時間で洗うこと ◦ ひどく汚れたのとは別にして洗うこと ◦ 汚れがひどい時は洗剤液で二度洗うすること		◦ くりかえし洗濯した時の再汚染率のグラフを使いよりはっきりさせる。 ◦ 洗剤で汚れがおちないと解釈する児童がいる時があるので洗剤液中の汚れが布に付着した状態であることをはっきりさせる。 (布地に適した洗い方がわかったか)
	5 えり、そで口などの汚れの目立つ部分はどんな洗い方がよいか考える。 ◦ 部分洗い (手もみ洗い、はけ洗い) ◦ 二度洗い	10	
6 上着の洗濯のしかたについて確認する。 ◦ 洗剤の種類		◦ 上着の洗濯は、洗い方、しぼり方、ほし方が下着の洗濯方法と異なる点があることを確認する。	